

## 令和 4 (2022) 年度事業計画

### I 事業方針

本協会 (JMCSA) は、わが国における登山界、スポーツクライミング界及び山岳スポーツ界の統轄に関する事業を行い、これを代表する団体として安全を第一に山岳環境と文化に配慮した登山、スポーツクライミング及び山岳スポーツの普及振興を図ることを目的としている。

一昨年の令和 2 (2020) 年度は、年度当初から未曾有の COVID-19 の感染拡大に見舞われ、東京 2020 オリンピックの延期を筆頭に諸事業の延期・中止が相次いだ。令和 3 (2021) 年度もコロナ禍の影響により、日本のみならず世界の経済状況が著しく悪化し、財政的に厳しい協会運営を強いられた。その中であって東京オリンピックが開催され、スポーツクライミングにおいては女子複合で銀、銅の 2 つのメダルを獲得できた。関係者をはじめ多くの方々の努力によることが大きい。さらにパリ 2024、ロスアンゼルス 2028 へのマイルストーンを設定しユース世代の発掘・育成・強化を図るとともに、選手の心身の健康をサポートする。

同じく山岳スキーが 2026 年冬季オリンピック(ミラノ、コルティナダンペッツォ大会)の正式種目になり、これから 2026 年を見据えたマイルストーンを設定すると共に本格的に強化選手の育成に取り掛かる。

令和 4 (2022) 年度においても、大筋昨年来のこうした現況に鑑み、方針を踏襲することになる。本協会では、日本の登山及びスポーツクライミングのより一層の改革・発展を期し、一昨年来「JMCSA 中期経営計画 2021-2025」(以下、「中期計画」という。)を策定しているが、その後の経過に基づきその見直しを図り、この中期計画で掲げる VISION (理念)・MISSION (使命)・VALUES (価値)に基づき、加盟団体及び登山・スポーツクライミング関係者とともに、新時代に向けて「より高き頂」へと更に大きく成長発展する登山・スポーツクライミング界を築いていき、登山とスポーツクライミングの力で社会を元気にする社会貢献(人づくり・地域づくり・国づくり)を目指す。

とはいうものの現実に目を向けると JMCSA を構成する重要な 47 都道府県の山岳(・SC)連盟(協会)の多くが運営に苦慮しているとの報告もある。これらの団体の方々の存在無くしては JMCSA 本体の運営に支障をきたす。将来展望を描くことは非常に重要であるが、地に足の着いた方針でいかななくてはならない。この件に関してはプロジェクトチームを作り対処していく所存である。

SDGs 推進委員会が発足した。持続可能な開発目標と訳されているが、今後協会として実践していかななくてはならない。まずは委員会毎に目標を定め、協会として総合して実践していく。

スポーツクライミングにおいては、各大会の運営ノウハウを向上させて、各競技大会の価値拡大を図る。また、クライミング体験会等を全国的に展開してスポーツクライミング愛好者の底辺拡大を目指す。

選手強化とともに指導者、審判員、ルートセッター、競技スタッフ等の養成と資質の向上を図り、国内の競技大会を発展させていく。

登山においては、山岳遭難事故を減らす対策が喫緊の課題である。低山等の道迷いやリーダー不在の遭難事故が絶えない。身近なリーダーを育成するために、「夏山リーダー制度」を積極的に全国展開し、より多くの夏山リーダー養成に努める。国立登山研修所と共に安全登山の意識、基本技術の研修を行う。同時に登山道の道標整備を推進する。しかし、「登山道は誰のものか」という議論がある。管理責任の明確化は本協会のみでは出来ないが地道に行政等と協力して実践していく。万一事故に遭っても自分たちを助けるレスキュー技術の研修も行う。

アルパインクライミングの衰退が叫ばれて久しい。遭難事故を起こさない自立した登山者の育成とともに卓越登山の実践者を見出し、アルパインクライミングの振興を図り、海外登山の奨励やウインタークライマーズミート等を支援する。

「美しい山、日本の未来へ」の山岳自然保護や登山文化の継承は、子供たちを山に親しみさせ、登山の楽しみ、喜びを伝える。委託事業の「少年少女登山教室」を加盟団体と共に更に発展させるべく、事業の取り組みを検討する。

世界的な気候変動の影響は山岳の世界にも表れている。その影響を出来るだけ少なくすべく、遭難防止とは別の意味で登山道を護り、将来に残す。

前述の山岳スキーや今後オリンピック種目化を検討しているアイスクライミング等の山岳スポーツの競技力向上及び普及・振興については、国際的にはともかく、国内においては、規模的にも、社会的にも競技としてはまだ発展途上にある。I F(国際連盟)と連携を図りながら出来る限りの支援を行う。

いよいよ令和4(2022)年度は「スポーツ団体ガバナンスコード」の本協会に対する適合性審査がある。自己説明及び公表は毎年対応が求められる。加盟団体も一般スポーツ団体ガバナンスコードに則った運営が求められており、前述に沿って加盟団体の組織・財政の強化を図りたい。

ガバナンス対応は、他の団体の例を見ても分かる通り、決しておろそかにできない。選手のみならず、役職員、指導者、審判員、ルートセッター等の倫理研修を継続的に行い、関係者が一丸となってガバナンスの強化に努める。さらに令和4(2022)年度は3年に一度の内閣府の立入検査が予想される。普段のコンプライアンスが試される時である。

JMSCA とはどのような団体か各ステークホルダーをはじめ広く国民に向けて「JMSCA の価値観」を積極的にアピールし、情報発信する必要がある。SDGs を推進しコーポレートコミュニケーション委員会を拡充し、HP の改善、英文 HP の開設などを図り、インバウンド対応を整備する。また、SNS 等を利用してタイムリーな情報発信を行っていく。

## II 組織運営及び財政の確立について

本協会が実施する各事業の推進にあたっては、本協会内に設置した各専門委員会を中心に企画・立案し、必要に応じてプロジェクトチーム等の設置や調査を実施し、課題解決に向けた具体的な目標の設定や実施方法等について検討を行う。

また、事業評価システムを着実に実施し、体系的な PDCA サイクルを定着させ、そのスキームを本協会内や加盟団体等に浸透・定着するよう努める。

さらには、加盟団体をはじめとした関係団体・機関等の協力を得るとともに、日本スポー

ツ振興センター(JSC)、日本スポーツ協会(JSPO)、日本オリンピック委員会(JOC)、日本ワールドゲームズ協会(JWG)等のスポーツ関係団体やオリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と必要に応じて連携・協力を図り、活動内容の広報を積極的に展開するため、報道機関とも連携を図る。

登山においては、国土交通省、環境省、文部科学省、スポーツ庁、国立登山研修所、国内山岳三団体(JWAF,JAC,JMGA)、全国山の日協議会等の関係省庁・機関・団体と連携を図り、安全登山と山岳自然保護の啓発に努める。

また、国際的には国際山岳連盟(UIAA)、国際スポーツクライミング連盟(IFSC)、国際山岳スキー連盟(ISMF)、アジア山岳連盟(UAAA)、アジア大陸協議会(ACC)等のIF、AFと緊密な連携を図り、国際人養成と並行して、引き続き役員を送り込むべくロビー活動を積極的に展開する。

これらの事業実施にあたっては、スポーツ庁、JSC、JOC、JSPO、等の関係庁・機関・団体をはじめ民間の協賛各社等に対し、本協会が実施するスポーツ推進事業の重要性について、より理解を得るための働きかけを積極的に行い、活動資金の援助を強く要請する。

一方、免税募金については、関係各方面の理解と協力を得て、寄付金の募金活動を行い、本協会が実施する各種活動を推進していくための財政確立に努める。

財源の確保については、クライミングイベントの価値拡大を図り、スポンサー協賛金、サプライヤーとの提携、チケット収入、物販収入等の事業収益で増収を図る。

また、山岳共済会への加入促進を積極的に図り、業務委託費の確保に努める。また、賛助会員(団体・個人)、「CLUB-ITADAKI」会員の加入促進や選手登録、各種資格認定等を積極的に進めて増収を図る。

支出については、公益法人の収支相償原則を旨に予算委員会を活用して、資金の有効な活用に努める。

なお、本協会の組織運営に際しては、関係者が一丸となって、コンプライアンス及びガバナンス強化、徹底に努める。

### Ⅲ. 事業内容

2022年4月1日～2023年3月31日までの事業予定について記す。

網掛けは JSC 補助事業。

#### 1. 安全登山普及事業

網掛けは JSC 補助事業。

##### (1) 青少年育成事業(普及委員会)

ア) 高体連登山専門部関連

①第 65 回全国高等学校登山大会の開催 令和 4 (2022) 年度香川大会

8月5日(金)開会式、スポーツセンターまんのう 8月5日(金)～ 9日(火) 登山行動

8月9日(火)閉会式、山域は笠形山、竜王山、大川山

②第 13 回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会の開催

12月24日(土)～25日(日) 埼玉県加須市市民体育館

イ) ジュニア登山教室

①「少年少女登山教室」の開催(委託実施)

「未実施の岳連(協会)への積極的な取り組みをお願いしたい。」

②「登山普及情報交換会」開催

2023年2月11日(土) 国立オリンピック記念青少年総合センター

##### (2) 登山に関する文化・学術の振興事業(普及、総務委員会)

ア) 新聞・ラジオ・テレビ・雑誌等への情報提供

イ) 登山に関する情報・資料の収集

ウ) 表彰・感謝状・推薦・顕彰

・2022年度実施各競技大会入賞者(1位～3位)表彰

・第59回全日本登山大会功労者特別表彰(10回以上の参加者)及び開催地関係者への感謝状(団体)贈呈

・2022年度永年参与感謝状贈呈

・特別功労者表彰

・第12回日本山岳グランプリの公募と顕彰

・2022年度各種スポーツ賞表彰候補者の推薦

朝日スポーツ賞、日本スポーツ賞、毎日スポーツ人賞、ビッグスポーツ賞、ミズノスポーツメントール賞、日本スポーツグランプリ等

・2022年度日本スポーツ協会公認スポーツ指導者表彰候補者の推薦

・2022年度自然公園指導員自然環境局長表彰候補者の推薦

・2023年度叙勲及び褒章候補者の推薦

エ) 2022年度海外登山隊奨励金の公募と選考(国際事業の項)

オ) 各種登山・山岳スポーツ大会・山岳文化講演会等の後援

カ) 日本山岳文化学会等と連携しながら、山岳文化の普及・振興を図る

### (3) 安全登山の啓発事業(普及、遭対、国際の各委員会)

#### 普及委員会

予定 ア) 安全登山指導者研修会(国立登山研修所他共催)の実施

- ① 東部地区(茨城県) 10月21日(金)～23日(日)  
茨城県大子町 山域: 袋田、及び奥久慈男体山周辺
- ② 西部地区(島根県) 11月18日(金)～20日(日)  
島根県内にて、詳細は今後決定。

予定 イ) 安全登山事業(国立登山研修所と共催)

- ① 高等学校等登山指導者夏山講習会  
8月3日(水)～5日(金) 国立登山研修所及び周辺山域
- ② 登山指導者リスクマネジメント研修会  
2日間調整中 関東地区(東京都内)
- ③ 安全登山サテライトセミナー  
名古屋会場: 6月25日(土)～26日(日) 名古屋工業大学  
東京会場: 12月17日(土)～18日(日) 国立オリンピック記念青少年総合センター  
現地とオンラインを同時に行うハイブリッド型式で開催  
現地では150名、オンラインでは400名を予定
- ④ 登山リーダー夏山研修会 8月21日(日)～26日(金) 国立登山研修所及び劔岳周辺
- ⑤ 積雪期登山基礎講習会  
2023年2月10日(金)～12日(日) 国立登山研修所及び周辺山域
- ⑥ 登山リーダー冬山研修会  
2023年3月12日(日)～17日(金) 国立登山研修所及び周辺山域

ウ) 第59回全日本登山大会の開催

2022年10月29日(土)～31日(月)の3日間、高知市 不入山、矢筈山、伊予富士  
工石山 稲叢山 (その後、検討の結果中止となった。)

エ) 第6回「山の日」全国大会 やまがた 2022

8月10日(水)から8月11日(木) 蔵王山付近

#### 遭対委員会

ア) 山岳レスキュー講習会

- ① 無雪期(富山県・国立登山研修所) 9月9日(金)～11日(日)
- ② 積雪期(群馬県・土合山の家) 2023年1月27日(金)～29日(日)

イ) 研修及び研究会

- ① 遭対常任委員研修会 11月26日(土)～27日(日) 長野県山岳総合センター  
内容: 無雪期レスキュー講習会の反省と積雪期レスキュー講習会に向けた準備

② 遭難対策研修会兼全国遭対委員長会議 6月25日(土)～26日(日)

開催場所：未定

遭難対策委員研修会兼総会 2023年3月25日(土)～26日(日)

開催場所：長野県山岳総合センター

③ 減遭難活動

候補地として山梨県と他1～2か所を設定、全国遭難対策委員長会議を通し、活動の呼びかけを行う。

ウ) 遭難事故防止のための研究・指導及び実態調査

- ・減遭難キャンペーン「ストップ・ザ1000」の啓発活動
- ・アニメ動画「そうよ そうなの 遭難よ！」の拡散

エ) 令和4年度全国山岳遭難対策協議会の共催(スポーツ庁他)

7月15日(金)文科省講堂

オ) 山岳保険加入者の事故調査(報告書作成/HP掲載)

カ) 遭難事故の調査研究

- ・遭難事故に関する調査研究(委託事業)
- ・遭難事故の科学的分析

キ) 遭難事故科学的研究・他支援

- ・IMSAR研究助成支援(継続)

ク) 遭対委員会 年間オンライン等

ケ) 「国内旅行傷害保険包括契約」実施

#### 国際・アルパインクライミング委員会

ア) 国際・アルパインクライミング委員全体会議兼第59回海外登山技術研究会  
場所 未定

イ) 海外登山懇談会

11月 国立オリンピック記念青少年総合センター

ウ) 共催事業

ウィンター・クライマーズ・ミーティング(国内)の共催  
2023年2月

#### (4) 登山指導者育成事業(指導委員会)

ア) 指導員研修会

① 全国指導委員長会議

6月11日(土)～12日(日)を予定。Web開催の場合には、6月12日13:00～16:00とする。密を避けるため東京海員会館以外の会議室で、ハイブリッド開催も併せて検討。

SC部指導委員会と合同で開催する。

② 登攀技術研修会(A級主任検定員・コーチ2養成講習会)

開催日時 未定

③ 氷雪技術研修会(A級主任検定員・コーチ2養成講習会)

4月30日(土)～5月1日(日) 谷川岳(土合山の家)

④ 公認スポーツ指導員コーチ1,2、主任検定員の養成

⑤ 夏山リーダー講師養成

(ア) 東北ブロック 6月26日(日) 岩手県

(イ) 九州ブロック 7月から9月に福岡県で開催を検討中

⑥ 上級夏山リーダー講師養成

集合講習会を実施するか? UIAA 委員会で検討、状況を見て決定する。

(以下は昨年度の予定、特に更新がなければ削除予定)

イ) 夏山リーダーUIAA 視察 9月、11月の2回

ウ) 委員会等

① 指導常任委員会 年間オンライン会議

② 夏山リーダー分科会 年間オンライン会議

エ) 国立登山研修所事業への協力

## 2. スポーツクライミング事業

### (1) 競技会運営事業(競技委員会)

公認大会・予選会実施の推進

ア) 競技会・研修会の開催

① IFSC クライミングワールドカップ

10月20日(木)～10月22日(土) 開催地:盛岡

(6月19日総会で日程変更が連絡された。)

② スポーツクライミング第10回リードユース日本選手権

5月14日(土)～15日(日) 富山県南砺市・桜ヶ池クライミングセンター

③ スポーツクライミング・第8回ボルダリングユース日本選手権鳥取大会

6月11日(土)～12日(日) 鳥取県倉吉体育文化会館

④ 第2回ユースフューチャーカップ

9月17日(土)～19(月) 茨城県鉾田市

⑤ スポーツクライミング・第5回コンバインドジャパンカップ

11月12日(土)～13日(日) 愛媛県西条市 (6/19日程と場所の変更が連絡された)

石鎚クライミングパーク SAIJO

⑥ 第13回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会

(「青少年育成事業」の項参照)

12月24日(土)～25日(日) 埼玉県加須市

⑦ スポーツクライミング・第18回ボルダリングジャパンカップ

2023年2月4日(土)～5日(日) 駒沢オリンピック公園総合運動場屋内競技場

⑧ スポーツクライミング第36回リードジャパンカップ

2023年2月18日(土)～19日(日) 千葉県印西市松山下公園総合体育館

⑨ スポーツクライミング第5回スピードジャパンカップ、

第3回スピードユース日本選手権

**(2) 国体スポーツクライミング競技の主管(国体委員会)**

五輪競技種目化に沿った国体スポーツクライミング競技の検討  
ブロック研修会の開催 11月～3月 全国9ブロック

- ① 第77回栃木国体第1回基準会議、4月
- ② 組み合わせ抽選会 場所、JSOSビル 日程調整中
- ③ 各ブロック別大会、都道府県予選大会の開催(委託実施)
- ④ 栃木国体リハーサル 6月4日(土)～5日(日)
- ⑤ 10月2日(日)～4日(火)第77回栃木国体スポーツクライミング競技、  
壬生町総合運動場特設会場
- ⑥ 第77回栃木国体以降の開催県への指導

**(3) 強化事業(強化委員会)**

ア) オリンピック強化選手の選考

イ) 日本代表選手選考・派遣

- ① 代表(S、A、B)選手の選考

ウ) 代表選手の派遣

- ① IFSCクライミングWC  
4月～9月 世界各地
- ② アジアンチャンピオンシップ 韓国・ソウル  
6月1日
- ⑥ ワールドユニバーシティチャンピオンシップスポーツクライミング  
6月13日(月)～17日(金) オーストリア・インスブルック
- ⑦ ワールドゲームズ  
7月14日(木)～16日(土) アメリカ・バーミングハム
- ⑧ IFSCユースワールドチャンピオンシップ  
8月22日(月)～31日(水) アメリカ・未定
- ⑦ アジアンゲームズ  
9月15日(木)～19日(月) 中国・黄州
- ⑧ IFSCアジアユース選手権  
11月 中国・重慶
- ⑨ アジアンユースゲームズ(暫定)  
12月20日(火) 中国・汕頭

エ) 代表選手強化合宿(海外・国内)

オ) ユース選手・指導者講習会の開催

カ) ジュニア・クライマー実態調査に基づく選手、指導者、保護者への  
スポーツ障害予防啓発(医科学支援)

- キ) 複合種目(リード、ボルダリング)及びスピード種目への取り組み
- ク) 選手の心身面の強化に対する取り組み
- ケ) 競技者育成プログラムの作成と関連事業の検討

#### (4) 審判・ルートセッター事業(技術委員会)

各種競技会・国体スポーツクライミング競技への支援協力 ルートセッター派遣、  
ブロック別研修会講師派遣

- ア) 審判・セッター会議の開催 (2月)
- イ) 全国ルートセッター研修会 年2回
  - ・第1回:
  - ・第2回: 日程未定(高校選抜の後)
- ウ) ブロック研修会等に合わせたの更新研修会 年数回

#### (5) SC コーチ養成講習会(SC 指導委員会)

日程等については登山部のコーチ養成と歩調を合わせる。

- ① SC コーチ 1,2 養成習会 年2回
- ② SC コーチ 3 養成会(補講) 関東地区 年1回
- ③ SC 主任検定員養成講習会
- ④ SC コーチ更新研修会 年2回
- ⑤ SC コーチ養成用教材作成

#### (6) スポーツクライミング医・科学事業(SC 医科学委員会)

- ア) 各種大会における救護スタッフ派遣および救護活動
- イ) 代表選手メディカルチェック事業
- ウ) 外傷・障害予防のための啓発事業
  - ① 登録選手向け医科学講習会(選手スタッフ合同ミーティング) 2回
  - ② クライミング医科学講習会
- エ) 調査、研究事業
  - ① 障害実態調査
  - ② 学会活動(日本臨床スポーツ医学会ほか)
- オ) JSP0 公認スポーツドクター、アスレチックトレーナー養成支援(受講希望者の推薦及び代表者協議会への出席)

#### (7) ドーピング防止事業(アンチドーピング委員会)

- ア) ドーピング防止思想の普及・啓発・教育など
  - ① ドーピング検査実施(JADAに委託)
  - ② ドーピング防止講習会開催
  - ③ TUE(治療目的使用に関わる除外措置)申請の支援
  - ④ ADAMS(アンチ・ドーピング管理システム)登録選手への管理支援

(8) 倫理研修会事業(ガバナンス委員会、アンチ・ドーピング委員会)  
AD・倫理研修会の開催(随時)

(9) ユニバーシアード関連(全日本大学スポーツクライミング協会)  
JOC 主催委員会等出席

(10) 国際連盟役員獲得支援事業  
スポーツ庁の委託を受けて実施する。

### 3. 登山関連競技会運営事業

(1) 山岳スキー、(山岳スキー委員会)

- ① 第16回日本山岳スキー競技選手権大会 2月下旬
- ② 八方バーチカル山岳スキー選手権 4月上旬
- ③ ISMF(国際山岳スキー連盟)世界選手権派遣支援(アジアから世界へ変更)

(2) スカイ／トレラン普及・振興

- ① (一財)日本トレイルランニング協会、日本トレイルランナーズ協会、(一社)日本スカイランニング協会等との連携強化とトレラン事業の調査・協力

### 4. 登山研究調査事業

(1) 国際交流事業(国際・アルパインクライミング委員会)

ア) 国際交流

- ① 訪日する外国登山代表団との交流
- ② UIAA アイスクライミング選手権派遣支援

(2) 登山医・科学支援事業(登山部医科学委員会)

ア) UIAA MedCom

- ① UIAA MedCom Meeting への出席

イ) 支援している医科学的諸事業

- ① JSMM 国際認定山岳医研修会
- ② NPO 富士山測候所を活用する会
- ③ JSMM 登山者検診ネットワーク
- ④ 夏山リーダー制度、インターハイ支援

ウ) 調査研究事業

- ① 医療支援を視野に入れた学校登山の実態調査

### 5. 自然保護研究調査事業

ア) 研修及び研究会

- ① 令和4年度自然保護委員総会(第44回山岳自然の集い)

(リアルおよびWEB利用の hybrid 会議&講演会)

都内貸会議室を利用して2022年6月上旬

全国自然保護委員会委員長および自然保護指導員参加の「集い」を再開

②2022年度山岳自然環境研究調査

丹沢三ノ塔での森林の再生活動の実習講習会、2022年5月下旬および11月上旬

③自然保護指導員フィールド研修会

2023年1~2月、愛鷹連峰 越前岳にて登山道の実情調査を予定

④第12回自然保護指導員研修会 (リアルおよびWEB利用の hybrid 会議)

都内貸会議室を利用して2023年1月下旬

イ) 自然保護の啓発

①自然保護指導員制度の推進

②自然保護広報資料の出版

③全国環境月間(6月)の実施

④環境省・自然公園指導員制度への協力

・自然公園指導員の推薦

⑤山岳自然保護関係団体と連携して自然保護委員会活動の推進

・山岳団体自然環境連絡会への参加

・山の野生鳥獣目撃レポート・プロジェクトの推進

・各種環境保護事業の後援と派遣

⑥日本オリンピック委員会主催「スポーツと環境会議」への参加・協力

全国山岳自然保護関係活動の集約とHP広報

## 6. 共益事業

### (1) 広報等

ア) 『登山月報』毎月15日定期発行 第637号(4月号)~第648号(3月号)

イ) HPのタイムリーな更新 (<http://www.jma-sangaku.or.jp>)

① HP新規アップ

② 英文コーナーの新設

### (2) 会議等

ア) 総会 6月19日(日)

イ) 理事会 原則として毎月第二木曜日

6月は総会の15日以上前の日

ウ) 全国理事長会議 2023年2月12日(日)

エ) 全国参与会 10月29日(土) 高知県 (第59回全日本登山大会開催時)

オ) 常務理事会 原則として毎月第二木曜日

カ) 委員長会議

キ) 常任委員会 毎月1回以上開催

ク) 事務局会議(随時)

ケ) 山岳4団体懇談会

- コ) (一財)全国山の日協議会 (随時)
- ・ 上部団体 評議員会・理事会・運営委員会への出席
  - ・ 第5回「山の日」記念全国大会 8月11日(木)山形大会

サ) 国際会議

- ① 国際山岳連盟 (UIAA) 理事会
- ② 国際山岳連盟 (UIAA) 総会
- ③ アジア山岳連盟 (UAAA) 理事会
- ④ アジア山岳連盟 (UAAA) 総会
- ⑤ 国際山岳連盟登山部会  
国際スポーツクライミング連盟 (IFSC) 総会
- ⑥ 国際山岳スキー連盟 (ISMF) 総会

(3) 総務等

- ア) 6月19日(日) 令和4年度定時総会
- イ) 令和4年度役員・会員名簿及び賛助会員名簿の作成・発行
- ウ) 議事録の整備
- エ) 山岳保険のPR (山岳雑誌広告、登山月報広告、マスコミ各社他)
- オ) 組織運営の円滑化のため、事務局体制の強化を行う。
- カ) JMSCA 会員のデータベース化の整備

(4) 財政等

- ア) 財源の確保
- ① JMSCA” ITADAKI” 会員の加入促進
  - ② 山岳共済会々員の加入促進
  - ③ 賛助会員 (個人・団体) の加入促進
  - ④ ロイヤリティー収入源の具体策を検討
    - ・ スポーツクライミングの安全確保を前提とした施設・用具等の安全基準の検討
- イ) 外部資金の導入
- ① グローバル・パートナーの獲得
  - ② 寄附金の獲得  
税額控除を活用して推進する
- ウ) 常務理事会において毎月の収支報告
- エ) 国民スポーツ登山振興基金の管理
- オ) 山岳共済会 (事務センター) の運営管理・山岳共済会会計
- カ) 監事監査 期末監査: 5月30日、31日  
中間監査: 11月初旬
- キ) 中間決算と補正予算について 11月
- ク) 2023年度予算案の作成 2023年1月

以 上